



炭焼き体験なども実施



八重山森林組合研究会のみなさん

# 八重山森林組合林業研究会

沖縄県石垣市

会員数 11名  
設立 平成6年5月

WE LOVE forest!  
林業研究グループ

36

## ■八重山ってどこにあるの？

宝石のように光り輝く青い海、まぶしいほどの白い砂浜、風に揺れる深紅のハイビスカス。一度は訪れてみたい、そして一度訪れると二度とその魅力から逃れられない、沖縄県、そして八重山諸島。八重山諸島は沖縄本島からさらに南西へ410kmほど行ったところにある、大小31の島々からなります。410kmという、東京タワーと兵庫県の甲子園球場を直線で結んだくらい距離。つまり、沖縄本島からも結構遠い場所にあるのです。

## ■メンバーには若手や他県出身者も

美しい海がこの目玉商品ですが森林も豊かで、石垣島には沖縄県で一番高い山である於茂岳(526m)があり、八重山地域の森林率約60%は、沖縄本島北部に次ぐ森林地域です。中には植栽後30年を過ぎた見事なりユウキユウマツ人工林もあり、木材資源としても魅力的な林となっています。ここ八重山に事務所を構えるのが、当地域唯一の森林組合である「八重山森林組合」です。この組合のメンバーを中心に、林業知識と技術の習得・研鑽を目的として

輩から造林や伐採の知識や技術を学び、資質向上に努めています。他者との競争や交流による研鑽が難しい離島という条件の中で、自分達の努力で技術向上しようとする姿には真摯な敬意を感じます。■常に前を見て、アイデアを実践！

研究会では、林業の基礎的な技術習得以外に「島で必要なものを島で生産するにはどうすればいいか」、「今あるものをさらに有効に使うにはどうすればいいか」という視点を持ち、お互いに話し合い、思いついたアイデアの実験を行っています。森林組合では、苗木や木炭の生産販売、リュウキウマツやイヌマキなどの島産材の販売を行っています。研究会ではこれらの商品にどのような付加価値

がつけられるか、ということを考えています。例えば、イヌマキ床柱材を皮付きのままではなく磨きをかけてすることで、より高価に取引ができます。

また、平成16年に組合事業で実施したチップパーシュレッターの導入も、研究会メンバーの「現在廃棄されている木材を有効に活用したい」という気持ちが後押しするものでした。さらに、生産したチップを当初予定の堆肥にするだけでなく、畜産用敷料として使えないか、伏材としてはどうか、チップを木炭化することで粉炭が簡単にできるのではないかと、常によりよい方法がないかという視点をもち、先進事例の情報収集や実験に取り組んでいます。

亜熱帯の小さな島が宝石のよう

平成6年5月に森林組合職員と作業班員の8人で八重山森林組合林業研究会が発足しました。現在は、林業に関心を持つ若い層のメンバーが増え、11人で活動しています。その中には他県出身者もおり、バラエティーに富んだメンバー構成となっています。

若いメンバーは林業の経験年数が浅いことから、グループ内の先



チップパーシュレッターを使った作業風景



組合で販売している燃料炭

に輝くのは、海や砂浜だけでなく、豊かな森林とそれを育てていくとする人々の笑顔があるからです。その笑顔が常に絶えないよう、今後も活動を続けて欲しいと思います。

(沖縄県八重山支庁

農林水産整備課 眞鍋智子)